

基礎看護学実習 I 前における現役生と社会人学生の 自己効力感及び学習目標の比較

藤田和加子・石井あゆみ・瀧本美佐子・徳珍温子・小林菜穂子・井内伸栄

要 旨

本研究の目的は、入学後初めてとなる臨地実習前に、現役生と社会人学生を対象に、自己効力感及び看護を学ぶ上での学習目標を比較して、対象に合わせた教育方法を探ることである。A 短期大学の 1 回生を対象に、坂野・東條の一般性セルフエフィカシー尺度¹⁾を用いた質問調査を行うとともに、看護を学ぶ上での目標を自由記述させた。その結果、社会人学生は現役生より、行動の積極性、失敗に対する不安が有意に高かった。看護を学ぶ上での学習目標は「知識・技術の習得」を現役生が求めているのに対し、社会人学生は「高い技術の習得」を求めている。また、社会人学生には医療チームの一人であるという意識があり、それぞれの傾向を理解し学習指導をする重要性が示唆された。

キーワード：自己効力感、学習目標、現役生、社会人学生、基礎看護学実習 I

1. はじめに

近年、社会経験を有する看護学生が増加している。その背景には、社会に出た後専門職としてキャリアアップを目指す者や、社会の不況や就職困難から堅実な仕事を求めてライセンスを取得するため入学する者など多様である。社会人学生は内発的動機で入学を決定し、入学後は主体的な学習姿勢を持ち、能動的な学習行動をとると述べている²⁾が、年齢的なマイナス面を感じる傾向が強く、学習者として自身の年齢に不安を感じている³⁾。

筆者ら教員の多くは多数の学生を実習指導している経験上、現役生と社会人学生に同様の指導方法では十分な学習効果が得られていないと感じている。現役生は一般的なマナーや接遇など社会的な基本姿勢から指導しており、実習に対する心がまえを構築することができるが、多くの社会人学生は今までの社会経験から看護に対しても自己流の価値観を既に持っており、教員の指導を受け入れにくい傾向がある。

臨地実習は、理論と実践の統合を図る有力な授業として位置づけられる。基礎看護学実習 I は学生にとって初めての实習であり、目的意識が明確な社会人学生は、現役生と比較すると臨地実習では失敗をしてはいけないという過度の緊張を抱えていることも少なくない。

このような状況の中、学習目標を明確にし、主体性を高め、個々の自己効力感や学習意欲を高める必要がある。ここで述べる自己効力感とは、「積極的に課題に取り組むというような認識を意図的に働かせること」⁴⁾を指すが、この自己効力感が今後の看護師になるための知識や技術の習得を促進させる重要な心理的側面の一つとなる。

そこで本研究では、初めての臨地実習である基礎看護学実習 I 直前の自己効力感と看護を学ぶ上での学習目標を、現役生と社会人学生で比較し、効果的な教育介入方法の示唆を得ることを目的とする。

2. 研究方法

2-1 調査対象

大阪府内の A 短期大学看護学科 1 回生（女子）81 名（2013 年度）

2-2 調査方法

データ収集期間は、基礎看護学実習 I が始まる 3 週間前の 8 月のオリエンテーション日とし、自記式質問紙を口頭による説明の上、配布した。調査協力の確認は、質問紙の回収をもって同意が得られたものと判断した。

基礎看護学実習 I は看護の対象である人間と

その生活についての関心を高め、病院内における看護活動について知り、看護感の基盤を形成することを目的とし、入学後、初めて経験する臨地実習である。主に病床環境を整える技術やコミュニケーション技術、血圧・脈拍・体温の測定技術の実践を通して、看護の対象である人間とその生活について関心を高め、病院における看護活動について知り、看護観の基盤を形成することを目標としている。

2-3 調査内容

自己効力感の測定には、坂野・東條の一般性セルフエフィカシー尺度¹⁾の「行動の積極性」(例：結果の見通しが見つからない仕事でも、積極的に取り組んでゆく方であるなど7項目)、「失敗に対する不安」(例：どうしたらよいか決心がつかずに仕事にとりかかれないことがよくあるなど5項目)、「能力の社会的位置づけ」(例：世の中に貢献できる力があると思うなど4項目)についての16項目の質問にYes, Noの2件法で回答を求めた。また、看護を学ぶ上での学習目標を自由記述で求めた。

2-4 倫理的配慮

学生には、研究の目的、意義、方法、研究参加の自由意思の尊重と不参加による不利益が生じないことへの保証、目的以外にデータは使用しないことを口頭と紙面で説明し、質問紙の回収によって同意が得られたものとした。個人が特定できるようなデータは扱わず、データは統計的に処理した。なお、この研究はA短期大学の生命倫理委員会の承認を受け実施した。

2-5 分析方法

一般性セルフエフィカシー尺度の結果は「行動の積極性」「失敗に対する不安」「能力の社会的位置づけ」の各項目(Yes=1点, No=0点, 逆転項目は方向を修正)の合計得点を求め、統計ソフトSPSS21.0, STATISTICS BASEを使用して、現役生と社会人学生の得点差を、t検定した。看護を学ぶ上での目標について自由記述した内容は、研究者5名で質的帰納分析をした。その主たる意図を解釈してコードにまとめ、類似性のあるコードをカテゴリに分類した。

3. 結果

質問調査紙を配布した81名中75名から回答が得られ、有効回答数は58名(68.2%)であった。そのうち現役生48人の平均年齢は18.5±標準偏差0.50歳、社会人学生10人の平均年齢は31.2±9.39歳であり、学生の年齢の範囲は20歳から45歳であった。基礎看護学実習Iに向けた現役生と社会人学生の自己効力感合計得点の平均値差についてt検定した結果を表1に

示す。社会人学生の「行動の積極性」、「失敗に対する不安」の平均値は、現役生に比べ有意に高かった。

また社会人学生の「能力の社会的位置づけ」の平均値は、現役生に比べて高い傾向が見られた。

表1. 現役生と社会人学生の自己効力感 3因子の平均比較

	現役生 (N=48)		社会人学生 (N=10)		
	平均	SD	平均	SD	
行動の積極性	0.43	0.23	0.80	0.17	*
失敗に対する不安	0.29	0.31	0.54	0.32	*
能力の社会的位置づけ	0.32	0.31	0.85	0.36	†

*p<0.05 †p<0.10

看護を学ぶ上での学習目標について自由記述したものをコード化し、意味の類似性に基づきカテゴリに分類した。現役生の看護を学ぶ上での目標を表2に、社会人学生の看護を学ぶ上での目標を表3に示す。

現役生は総コード数99を8カテゴリ、【コミュニケーション能力を高める】【知識・技術を身につける】【患者を第一に考え、安全・安楽な看護の提供】【自己の成長】【積極的に学ぶ】【国家試験合格(資格取得)】【理想の看護師】【生きていくため】と分類した。社会人学生は総コード数19を5カテゴリ、【コミュニケーション能力を十分に養う】【高い技術の習得】【患者の立場に立った看護の提供】【医療チームの中で信頼される看護師になる】【国家試験合格(資格取得)】と分類した。

看護を学ぶ上での学習目標の現役生と社会人学生との比較では、現役生では【コミュニケーション能力を高める】【知識・技術を身につける】【患者を第一に考え、安全・安楽な看護の提供】などの知識・技術に関するカテゴリ数が多く見られた。【国家試験合格(資格取得)】に関しては、現役生、社会人ともに目標にあがっているが、【自己の成長】【積極的に学ぶ】【理想の看護師】【生きていくため】のカテゴリは現役生に特有のものであり、【医療チームの中で信頼される看護師になる】のカテゴリは社会人学生特有のものであった。

4. 考察

現役生と社会人学生の自己効力感合計因子得点の平均値の比較を行った結果では、社会人

表 2 現役生の看護を学ぶ上での学習目標

カテゴリ	コード（総コード数99）	
コミュニケーション能力を高める	①対象者や医療従事者とのコミュニケーションを大切にする	
	②コミュニケーション技術習得のためにも積極的に人と関わっていくようにする	
	③患者とのコミュニケーション、看護師とのコミュニケーションを身につける	
	④コミュニケーションのとり方、患者の気持ちを考えて行動する	
	⑤コミュニケーション能力の向上	
	⑥コミュニケーション力をつける	
	⑦コミュニケーション力をつける	
	⑧うまくコミュニケーションをとることができる	
	⑨技術だけでなくコミュニケーション方法も学習する	
	⑩失礼のない態度で相手と接する	
	⑪コミュニケーションがきちんととれる看護師になる	
	⑫患者とのコミュニケーション	
	⑬コミュニケーション能力を高める	
	⑭挨拶を笑顔ですること	
	⑮人との関わりを大切に	
	⑯人の目を見て話すこと	
	⑰自分から話しかけたり、発言したり行動できるようになる	
	⑱相手の立場になって物事を考えて行動する	
	⑲どんな時にも患者の意見に共感できる	
	⑳信頼関係を大切に	
	㉑気遣いができるようになる	
	㉒患者さんの気持ちに寄り添うことができる	
	㉓患者が寄り添うことができる看護師になる	
	㉔誰かがしようとすることを察することができる	
	㉕人の気持ちがわかる看護師になる	
	㉖患者さんとの信頼関係を築き少しでも心を癒してもらえるように接する	
	㉗人の気持ちに寄り添う	
	㉘患者さんに病気を治すための気持ちの向上などの支援	
	㉙患者と看護師の信頼関係	
知識・技術を身につける	①根拠をつかむ	
	②医学知識を身につける	
	③多くの知識を学び自分のものにする	
	④正しい情報を学びそれらを看護技術としていかせるようにする	
	⑤すべての看護を理由や根拠を理解した上で行うことができる	
	⑥質問に答えられる	
	⑦わからないことがあれば質問しその場で解決する	
	⑧正しい知識などを身につける	
	⑨技術を身につける	
	⑩自分でいざという時に判断し行動できるようになる	
	⑪冷静で優れた技術・知識を持ち行動できるようになる	
	⑫技術の習得	
	⑬学ぶ姿勢を忘れず技術を修得する	
	⑭基礎技術の向上	
	⑮技術を向上させる	
	⑯技術を学び実践するときに行うことができるようにする	
	⑰技術・知識を確かなものとする	
	⑱技術・知識をしっかりと身につける	
	患者を第一に考え、安全・安楽な看護の提供	⑲技術の習得
		㉑きちんとした技術の習得
⑲技術・判断・対応をきばきとできるようにしたい 効率のいい行動を行う		
㉒看護師を目指す上で必要な技術をしっかりと身につける		
㉓看護技術を正しく対象者に提供する		
㉔現場で活躍できるように技術をしっかりと学び、患者の前で十分発揮できるようになる		
①患者の安全・安楽を最優先に考える事ができる		
②患者の安全・安楽を学び身につける		
③安全・安楽		
④患者優先の行動をとる		
⑤安全・安楽に行う		
⑥患者の安全・安楽を考えた看護を学ぶ		
⑦安心感を持たせられるようにする		
⑧患者さんの苦痛のない医療を考える		
⑨健康な人たちにこれからも健康でいられるような指導ができる看護師になる		
⑩患者を第一に考え安全安楽を行うこと		
⑪看護技術を身につけ患者さんに対して安全・安楽を最優先に考え行動する		
⑫患者さんを一番に考えケアを行う		
⑬少しでも患者のためになることをできるような看護師になる		

自己の成長	①看護師として人として成長する ②自分の立場を忘れずにふるまう ③周りの人の健康も気にする ④自己管理を怠らないようにする ⑤ON・OFFの切り替えをつける ⑥実習で間違えてもあせらない ⑦自信を持つ ⑧自信をもつ ⑨技術面だけでなく内面も磨き成長すること
積極的に学ぶ	①いろいろなことに疑問をもってたくさんのことを学ぶ ②充実した学校生活を送り勉強に励む ③学校だけでなく自己学習をしっかりとる ④積極的に行動する ⑤積極的に学ぶ心を持つ ⑥知識と技術を修得するために努力を惜しまない ⑦積極的に取り組む ⑧あきらめず努力をして学ぶ
国家試験合格(資格取得)	①三年間で卒業する ②国家試験に受かること ③国家試験に合格する ④国家試験に合格する事ができるように毎日の勉強を頑張る ⑤国家試験に受かる ⑥国家試験に合格する(現役で) ⑦国家試験に受かって頼りある看護師になること ⑧国家試験合格
理想の看護師	①看護とは何か自分なりに考えを持つことができる ②人のために全力をつくせる看護師になる ③看護師になる上で大切なことをしっかりと学ぶ ④強くて常に明るい看護師になる ⑤患者さんのことを考えた看護を実践する ⑥人を助けるため ⑦母みたいな看護師になる
生きていくため	①生きていくため

表 3 社会人学生の看護を学ぶ上での学習目標

カテゴリ	コード (総カテゴリ数19)
コミュニケーション能力を十分に養う	①コミュニケーション能力を十分に養うこと ②自分の意見を言葉に配慮して伝える ③患者とのコミュニケーション能力の取得と信頼関係をつくる ④相手の話をよく聞く
高い技術の習得	①高度技術を身につける ②高い技術の習得 ③正しい技術を身につけること ④看護の技術はもちろん技術を学ぶのに必要な知識を修得する(根拠に基づいた技術)
患者の立場に立った看護の提供	①患者の立場に立った看護を心がける ②患者の心を重んじるようにする ③自分の気持ち(してあげたい何かできる事)ではなく相手の気持ち(受け方)を優先できる行動 ④患者個人に合った自分独自の看護サービスを提供する
医療チームの中で信頼される看護師になる	①看護師としての知識を持ち信頼される看護師になる ②医療チームの中で信頼される看護師になる ③チーム医療で信頼される人材になる
国家試験合格(資格取得)	①ぶじに学年を上げられること ②無事に学校を卒業できること ③看護国家試験を合格できるようにする ④国家試験に合格すること

学生の「行動の積極性」、「失敗に対する不安」の平均値は、現役生に比べ有意に高く、「能力の社会的位置づけ」の平均値では高い傾向がみられた。社会人学生はこれまでに人間関係を培ってきており、知識やコミュニケーション能力や礼儀が身につけている。比較的容易に周囲に溶け込むことができるため、現役生より積極的に活動することができると思われる。そのためグループをまとめるリーダー的な役割として頼られることや、教員や同級生からも頼られる存在であることが多い。山本は、「指導者は社会人経験で得た知識や能力の活用に対する期待や社会人経験で得た社会的マナーの手本としての期待をしている」と述べている⁵⁾。基礎看護学実習Ⅰは、入学後初めて白衣を着ての臨地実習であり、慣れた学習環境とは違う病院における学習環境は緊張感や戸惑いも多く不安を訴える学生も少なくない。社会人学生が失敗に対する不安を現役生より感じているその背景には、社会人学生は社会での失敗や挫折を多少なりとも経験していることや、社会人学生に対する周囲からの期待が自己へのプレッシャーとなり、失敗に対する不安を助長させているのではないかと推測される。ノーズルは成人教育を「アンドラゴジー」と命名し、「成人の特性を活かした学習支援」の体系を提起し、その中核となる学習原理には、「学習者の知りたいという欲求」「学習者についての自己概念」「学習者の以前の経験」「学習への準備」「学習への方向づけ」「学習への動機」がある⁶⁾。これらは成人の学習を支援するためのものであり、成人学習者の特徴を理解し関わることで学習者中心の学習を支えるものになるという考えである。今回の結果から、社会人学生の学習姿勢は目標を持って、自分のやるべきことを考えて実習に臨もうとしており、自己主導のスタイルをとっているといえる。成人の学習者は、指導者などに対して依存的なものから自己主導へ変化してくるとされており、現役生と比較して、社会人学生では自己主導的な学習姿勢であることを教員側も理解しておく必要がある。その上で、学習者が疑問や不安に思った時に、即時的に解決するよう学習の方向付けを行なうことが、学習者のニーズを満たした実習指導に繋がると考える。また、それらが学習者にとって適切な指導内容になっているのかを、学生に投げかけフィードバックし、客観的な視点で指導効果を評価していく必要がある。以上のように社会人学生を指導する際には、入学前の経験やレディネス、また学生自身が持つ自己概念はどういう事かを知ることが重要である。

看護を学ぶ上での学習目標に現役生・社会人学生の両方が、コミュニケーション能力、技術、患者の立場を考えるなど、国家試験合格に関連した内容を挙げていた。それは、入学当初より学んだコミュニケーション、技術、また患者の立場を理解するということが看護にとって重要であることが認識できていたと考えられる。現役生、社会人学生ともに、コミュニケーション能力、技術、患者の立場を考えるなどの、目標を挙げているが、掲げている目標の到達度には、相違がみられた。カテゴリで見ると現役生は「高める」「知識を身につける」に対し、社会人学生は「十分に養う」「高い技術の習得」と、より高いレベルの習得を目標にしていた。西谷は、「社会人経験を持つ学生の学習への取り組みは入学動機や将来への目標が明確にあり、内発的動機付けが高く学習意欲が高かった」と述べており⁷⁾、社会人学生は現役生より高い到達目標を設定していると考えられる。しかし、失敗に対する不安を感じている社会人学生が多いことから、看護を学ぶ上では現役生と同じ初学生であることを伝え、初めから高いレベルのものを求めるのではなく、まずは基礎的な看護技術を修得することを目標に、焦りや不安を軽減していくことが重要であると考えられる。社会人学生は看護を学ぶ上での目標に【医療チームの中で信頼される看護師になる】というカテゴリが抽出され、チームの中で個としての自分を意識している様相があった。また、看護師が他職種と良好なチームワークを必要とすることを実習前から理解できていることも推察され、その理由は学習歴や社会経験に違いはあるが、入学前までのそれぞれの経験から、ある程度の社会性や責任感が身につけているためと考える。このような社会人学生の特性を捉え、チーム看護としての見解から指導すると、指導内容がスムーズに理解しやすく、学生自身も納得した実習展開になるといえる。

吉川は「一定の社会経験や実務をもった成人を大学等に入れることは、大学の教育・研究活動を活性化する上で効果が大きい」と述べている⁸⁾。教員は社会人学生がどのような社会経験や学歴を経て入学したのかを理解し、これまでの経験を尊重しつつ、学生一人一人のパーソナリティを生かしながら、実習での成功体験等、意図的な介入をしていくことで自己効力感が高める事ができると考える。

今後も異なる背景を持つ者が学ぶ事の有用性と、現役生と社会人学生の自己効力感の継続的な変化を明らかにし、看護教育にとってより効果的な看護教育方法を検討していきたい。

5. 謝辞

本研究にご協力くださった学生の皆様と、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 坂野雄二, 東條光彦: 一般性セルフエフィカシー尺度作成の試み, 行動療法研究, 12(1), 73-82(1986)
- 2) 西谷千恵: 大卒社会人経験者が看護専修学校入学に至る経緯, 日本看護学会論文集看護教育, 34, 109-111(2003)
- 3) 小野田真弓: 社会人経験をもつ学生の臨地実習における体験. 看護教育研究収録. 看護教育学科, 28, 87-93 (2002)
- 4) 祐宗省三: 社会的学習理論の新展開, 105, 金子書房, (1985)
- 5) 山本晴美: 臨地実習指導者が社会人経験のある学生に対して抱く思いや期待, 看護教育研究集録, No.35, 76-83(2009)
- 6) 日本社会教育学会編: 講座, 現代社会教育の理論 3, 成人の学習と生涯学習の組織化, 東洋館出版, (2004)
- 7) 西谷千恵: 社会人経験を持つ新人看護師の職業生活の様相. 日本看護学会論文集, 看護教育, 35, 39-41(2004)
- 8) 森隆夫ほか編著: 生涯学習の扉, ぎょうせい, 71(1997)

(受理 平成 26 年 6 月 30 日)